広げよう地域に根ざす支援の輪
休眠預金活用事業

For Refugees, With Refugees
――地域と難民、そして私たち――

入場無料！

日時: 2025年7月9日（水）
14時00分～16時00分（開場13時30分）

会場: 名古屋国際センター 別棟ホール
（名古屋市中村区那古野1-47-1）

参加方法: 会場またはオンライン

言語: 日本語 ※一部、日英の通訳あり

定員: 会場80名、オンライン500名
（要事前申込、先着順）

会場参加申込　オンライン参加申込

申込〆切：7月8日

世界では、約1億840万人（2022年末現在）が紛争や迫害、暴力、人権侵害などで故郷を離れ、日本にも逃れてくる人が増加している現状があります。2024年には約1.2万人が難民認定申請し、その出身国は過去最大の92カ国におよびます。しかし、日本は難民の受入れには厳しく、申請結果を待つ間、就労・教育の機会が限られ、生活の保障が難しいなかで、多くの難民が孤立して困窮しています。

このシンポジウムでは、特に東海地域の難民事情に焦点を当て、難民の現状と課題解決に向けた地域での取り組みを紹介し、難民を「隣人」として受け入れるために私たちができることを共に考えます。

特定非営利活動法人 名古屋難民支援室 Door to Asylum Nagoya
JCIE JAPAN CENTER FOR INTERNATIONAL EXCHANGE 日本国際交流センター
JAPAN PLATFORM

プログラム

第1部　難民の素顔を知る

難民当事者も登壇します

14:05～　ミニレクチャー「難民の現状」
（難民支援協会代表理事 石川えり）

名古屋難民支援室（DAN）活動紹介
（DAN コーディネーター 白岩亜由美）

難民との対談＆質疑応答（日英通訳あり）
（**聞き手**：DAN 理事・事務局長・コーディネーター 羽田野真帆）

第2部　自分事として関わる

15:10～　DAN の活動に関わる難民の方の感想を紹介（ビデオ上映）

リレートーク

司会者　神田すみれ（NPO 地域と協同の研究センター研究員；多文化ソーシャルワーカー）

パネリスト　向井忍（NPO 地域と協同の研究センター代表理事補佐）
渡邉久人（セイノーホールディングス株式会社執行役員、コーポレート推進部担当兼人事部担当）
羽田野真帆

登壇者

石川えり

1994 年のルワンダにおける内戦を機に難民問題への関心を深め、大学在学中、JAR 立ち上げに参加。2001 年より難民支援協会（JAR）に入職。直後よりアフガニスタン難民への支援を担当、日本初の難民認定関連法改正に携わった。2008 年 1 月より事務局長、2014 年 12 月に代表理事就任。上智大学非常勤講師。一橋大学国際・公共政策大学院非常勤講師。NPO 法人名古屋難民支援室の外部アドバイザー

神田すみれ

30 年以上の国際経験と実績をもとに、日本に暮らす移民の生活サポートや教育、政策提言を通じて、市民団体、教育機関、企業、行政と連携しながら多文化共生社会の構築に向けて幅広く活動。

白岩亜由美

大学卒業後、民間企業等を経た後、英国の大学にて、国際移民学と国際人権法の修士号を取得。その中で、日本の難民問題に関心を持ち、2018 年 9 月より名古屋難民支援室にコーディネーターとして入職。東海地域に暮らす難民の法的・生活支援に携わる。

向井忍

名古屋大学理学部卒業。生活協同組合コープあいち常務理事・参与を経て、NPO 地域と協同の研究センター代表理事補佐。名城大学（人間学部・法学部）非常勤講師（2019~24 年）として、学生とともに難民食料支援に取り組む。愛知県被災者支援センター（2011 年～）、あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク（2022 年～）、能登半島地震避難者支援ネットワークあいち（2024 年～）にも関わる。

羽田野真帆

学童期に海外で多様な人と関わった経験から、難民支援の仕事を志すようになる。大学在学中から難民対象の日本語教室や、難民が入管や裁判で提出する証拠資料の翻訳ボランティアに携わる。2012 年の団体設立時より現職。

渡邉久人

1991 年 4 月同社（西濃運輸株式会社）入社後人事・労務部門にて勤務。国内外の人財採用・育成領域での企画立案等に従事。2023 年 4 月より現職就任後は、上記領域に加えて総務・コーポレートガバナンス・コンプライアンス領域の業務も担当。2022 年 3 月ウクライナ避難民受入プロジェクト組成以降、避難民・難民受け入れにも関わる。

この事業は、休眠預金事業「アウトリーチ手法による外国ルーツ住民の自立支援事業」の一環として開催するものです。